

ボディコンディションの活用 牛群検定成績表でチェック

以前より、牛群検定関係者から牛群検定への導入が熱望されていたボディコンディション(以降BC)が、今春より新しい検定項目として加わりました。BCとは、牛体の体脂肪蓄積などを観察管理することで、牛群の栄養管理などに利用する酪農技術です。BCの観察方法は、BCスコア(以降BCS)としてファーガソン博士が提唱したUV法が一般的に知られておりますが、この度の牛群検定ではUV法にこだわらず、**極めて簡易的に、削瘦(2)、普通(3)、過肥(4)**

の3段階で判断する簡易BCSを用いても良いこととしております。

検定成績表 (個体検定日成績)

牛コード	分 娩		産子性別	難易	搾乳又は乾乳日数	BC: ボディコンディション				
	年 月 日	産次				P/F比	濃厚飼料給与量(kg)	直近体重(kg)	BC管理	
0775	2305	30	2	♂	1		8.0	565	3.00	
5311	2305	16	1	♀	1	21	0.53	11.0	422	4.00
5314	2305	11	1	♀	1	26	0.60	14.0	435	4.00
0737	2305	10	3	♀	1	27	0.54	14.0	587	3.25
0744	2304	30	3	♀	1	37	0.60	13.0	666	3.00
0732	2304	23	3	♂	1	44	0.57	12.0	735	4.00
0703	2304	22	5	♂	1	45	0.86	13.0	732	4.00
0750	2304	19	3	♀	1	48	0.73	14.0	627	3.50

斜体は先々月
 太字は今月
 細字は先月

初産体重400kg代小さめですが、ボディコンディション4で過肥。分娩前後の過肥は、周産期病を発症しやすい。

検定成績表の表示は、簡易BCSを用いたものを図に示しました。BCは毎月の検定時に全検定牛を報告することも可能ですが、規模が大きい酪農家などでは作業的に困難が伴います。そういった場合は例えば牛群の半分は今月BC判定を行い、残り半分は来月実施するといった隔月での実施も可能です。検定成績表では図のとおり先々月までに判定されたBCを表示するようにしていますので、最大3カ月に一度の判定でも検定成績表に表示されます。

牛群検定においてはこのように幅広い判定法を可能としていますが、泌乳末期～分娩前後のBCは重要ですので欠かさないようにします。

さて、このように判定し検定成績表に表示されるBCですが、その利用は多岐にわたります。もっとも大事なことは、分娩前後の時期に飼料を過不足なく給与しているかどうかの判断を行うことです。そして、もっとも注意すべき点が分娩前の過肥にあります。過肥自体がまず飼料の無駄であり経営上の損失ですが、さらにケトosisや低カルシウム血症、第4胃変位などの周産期病の温床となり、分娩後の繁殖成績に悪影響をおよぼすことが知られています。以前、乾乳牛は太っていた方が良いとする方もいましたが、現在は乾乳期であっても過肥は禁物とされています。更には、乾乳期に入ってからBCの調整は、妊娠末期でもあり流産死産といった事故を招く危険性があることから、泌乳末期までにBCの調整を完了させる必要があります。このことは、検定成績表に表示される分娩予定日の近い検定牛のBCをより注意する必要があることを示しています。牛群検定のことでご不明なことがあれば、岡山種雄牛センター(電話 0868-57-2475)担当：小園へご連絡下さい。

(補足)

ボディコンディションの遺伝的改良が可能となるように、日本ホルスタイン登録協会が行う体型審査時のボディコンディションスコアを利用した種雄牛遺伝評価を2011 - 8月評価より公表する予定となっています。